



開倫ユネスコ協会 NewsLetter

第127号

足利市堀込町145 Tel 0284-72-5915
発行者 林 明夫 2019年1月1日

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

「ルワンダの教育を考える会」と開倫ユネスコ協会

2007年5月、宇都宮市にある栃木県総合文化センター（特別会議室）において、「第9回人間の安全保障フォーラム」が開催されました。そのとき、講師として「NPO法人ルワンダの教育を考える会」理事長永遠瑠（とわり）マリールイズさん（右写真）をお迎えし、体験に基づく命の尊さ・教育の尊さ・平和の大切さなどについてたいへん熱く語っていただきました。それ以来11年間、開倫ユネスコ協会との良好な関係はずっと続いています。



2015年4月、第16回KAIRINユネスコ杯ドッジボール選手権大会で、「ルワンダの教育を考える会」への支援をさせていただくため、特別企画展を開催致しました。会場ではウワンダにあるウムチョムイーザ学園内の子供たちの写真を展示するコーナーや募金箱を用意させていただきました。参加チームの監督、コーチ、保護者様、審判団の皆さんなど多くの方々にご理解とご協力をいただきました。

また、2017年「ユネスコ世界哲学の日」のイベントで永遠瑠 マリールイズ理事長から講演をいただきました。理事長は、戦争には常識はありません、もらったカビだらけのパンを食べるか、食べずに死んでいくか、その選択をつきつけられました、と難民キャンプでのつらい出来事を語られました。暖かい布団に入って眠れるのは「平和」だからです、とやさしく語りかけました。開倫ユネスコ協会も学園への教育支援をさせていただいております。

◆ルワンダの教育を考える会は、戦争で心身共に傷ついたルワンダの子供達に対して、教育の機会を与え、民俗や宗教政治思想にとらわれることなく、その人らしく生きていくための様々な教育支援に関する事業を行い、ルワンダの平和に寄与する事を目的とします。

現地ルワンダでは、義兄チャールズが中心となり「ADESOC」というNGOを発足させて学園の建設と運営を担当しております。ウムチョムイーザ学園は、貧しい子ども達も学ぶことができる学園であり、大人のための自立支援も視野に入れた活動でもあります。本会は貧しい子どもも学べるために幼稚園・小学校の運営面への支援を続けております。(ホームページより引用)】



ウムチョムイーザ学園の様子

「ルワンダの教育を考える会」への教育支援団体の紹介

『なかよし学園』による支援プロジェクト

千葉県松戸市に本部を置くなかよし学園 (<http://www.nakayoshigakuen.net>) は、いじめや不登校の相談から活動を開始し、現在は国際 NGO 団体として海外教育支援活動を行っています。なかよし学園は中村雄一校長を中心に、現在はカンボジア、ルワンダの2カ国で活動を行っています。40年前にポルポト政権によって多くの国民が犠牲になったカンボジア、20年前に民族紛争によって大規模なジェノサイド（虐殺）が発生したルワンダ、共に戦争の爪痕が残り、貧困や教育の欠如等の問題が各地で見られます。そのような地域で私達は、5歳から60歳代まで、多くのメンバーと共に様々なプロジェクトを行っています。カンボジアでは「算数セットで計算を学ぼう」「サッカーゴールを立ててスポーツとしてサッカーをやろう」「シャボン玉で手洗い習慣を学ぼう」など、ルワンダでは「フェラムネで音を学ぼう」「わたあめで状態変化を学ぼう」「竹とんぼの仕組みを学ぼう」など、現地の子供達に学問の芽を育てるべく授業を行っています。また、日本で不要になった洋服や勉強道具などのおさがりを「応援グッズ」として現地で頑張る人達にプレゼントする「おさがりサンタクロスプロジェクト」を通じ、多くの日本人にカンボジア、ルワンダを知ってもらい、さらに現地へ連れていき実際に交流を持つことで世界を自分の事として考える目を養っています。現在セネガル、東ティモール、ネパールから授業の依頼が来ており、今後より多くの国で活動を行っていく予定です。今後ともよろしくお願いします。

